

人はみな、
生かされて
生きてゆく。
更生保護ネットワーク

茨木地区 謹賀新年 保護司会だより



梅林寺

茨木ゆかりの戦国武将、中川清秀(1540~1583年)の肖像画が菩提寺の梅林寺にある。観無量寿経を上部に記す賛に天正11(1583)年の年記があり、有名な織田信長像と同じく袷に露頭という当時としては斬新な構図である。清秀は池田氏の配下で頭角を現し、荒木村重のもと元龜2(1571)年白井河原合戦において和田惟政を討ち取る勲功をあげた。のち中島または新庄から茨木城主となった。天正8(1580)年羽柴秀吉と義兄弟の契りをお互に、信長から毛利氏のもとに二か国を与えるという誓詞をもらうほど武勇をうたわれたが、天正11年賤ヶ岳の合戦で大岩山砦を佐久間盛政に攻められ討ち死にする。清秀の忠誠にこたえて秀吉は嫡男秀政、次男秀成に跡を継がせ、中川家は豊後国岡(大分県竹田市)の大名として鹿藩置県まで存続した。

(文責: 畠山眞悟保護司 画像データ提供: 茨木市教育委員会)



梅林寺の中川清秀像
(片桐町)

茨木市更生保護サポートセンター
電話 072-620-8310
はんざいゼロ

非行・犯罪に関する相談をお聞きします。秘密は厳守します。
来所の際は必ず電話予約をお願いします。

【開所時間と相談予約の受付時間】平日10時~16時(祝日と年末年始は除く)
【所在地】茨木市福祉文化会館(オークシアター)1階(茨木市駅前4-7-55)
予約をすれば夜間、土曜日、日曜日に相談することも可能です。

※平素は、保護観察対象者やその家族との面談、保護司の研修、更生保護関係団体相互の情報交換、会議などに使用されています。

茨木市更生保護サポートセンター 通信

★令和5年度上半期の利用状況★
(R5.4.1 ~ R5.9.30)

保護観察官の定期駐在	6回	
保護観察対象者との面談	80回	
会議	保護司会	10回
	更生保護女性会	36回
	茨木BBS会	6回
	更生保護推進協議会	1回
	更生保護協力雇用主会	1回
その他	0回	
市民からの相談	1回	
保護司来所人数(延べ人数)	323人	

開所日数	4月	5月	6月	合計
	20日	20日	21日	
	7月	8月	9月	122日
	20日	21日	20日	

サポートセンター移転について



茨木市役所合同庁舎

茨木市福祉文化会館の閉館にともない、茨木市更生保護サポートセンターが移転します。

移転時期: 令和6年9月末から10月頃を予定
移転先: 茨木市東中条町2番13号 茨木市役所合同庁舎 6階

詳細は決まり次第、市広報等で周知される予定です。



年頭のご挨拶



茨木地区保護司会 会長 畑 敬

畑 敬

敬

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、明るい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。昨年は、阪神タイガースが38年ぶりに日本一になり、大いに盛り上がりました。茨木市では、希望の茨木市文化・子育て複合施設におくるがオープンし、これからますます施設を利用した地域の発展を期待するところ です。

さて保護司会活動に目を向けますと、法務省において「持続可能な保護司制度の確立に向けた検討会」が設立されました。これは、保護司の担い手が年々減少し、このままでは保護司制度が維持できないという危惧から設立されたもので、新しい保護司をどうやって確保するのかと、確保するためには、今の保護司の待遇はこのままではいいのかという2点を中心に議論がなされると思います。茨木地区保護司会におきましては、現在は定員に対する充足率が9割で、あまり切迫感はありませんが、定年に近づく保護司がたくさん控えておられますので、今から何らかの対策を打つ必要があると思います。又、今年には、福祉文化会館が閉館になるのに伴い、9月頃に「茨木市更生保護サポートセンター」は、消防本部が入っている合同庁舎の6階に移転します。定例会につきましても、6月以降は、おにクルの会議室等を借りる予定をしています。皆様方には、色々ご不便をかけると思いますが、持続可能な、次なる保護司会を目指して前向きに活動していきたいと思っています。



◆土岐氏のおの会

この会はもうすぐ20年を迎えるとのこと。発足の足元は保護司の青木信夫氏、事

◆本年度の企画
昨年の猛暑は耐え難いものがありました。そんな暑い8月26日の夏季一日研修。福祉文化会館のエレベーター故障で3階まで徒歩という悪条件の中、44名の方が参加してくださいました。今年度は研修部員新メンバーでの活動となり、戸惑いながらの出発でした。夏季一日研修はコロナの収まりも見えてきており、久しぶりに終日での研修会を計画いたしました。

◆本年度の企画

酷暑の中、学ぶ
令和五年度夏季一日研修を終えて

研修部部長 上沼 愛子

事務局を土岐氏が担当し、悩んでいるご家族が本音で話せる場所として月1回の例会、週1回の電話相談を続けてこられました。今代表に土岐氏がなり、コロナ禍で現在は電話相談のみの活動のようです。ご講演では、ご自身の体験をとつとつと語られました。気のいい息子さんは仲間の誘いを断れず非行を繰り返して、叱るだけの母親とは距離がでるばかり。夫の協力がないうち、辛い日々が続いたので。学校の先生、カウンセラー、息子さんが捕まっただけからは刑事さん、家裁の調査官までにも積極的に関わり、意見を求め、何がいけなかったのか?と考えるていくうちに、どうしてそんなことをしたの?と息子に聞いていかなかった自分に気づくのでした。そこから息子さんへの見方を変えていきました。自分の訴えに耳を傾けてくれた喜びをかみしめ、みおの会発足、世話人としての活動が始まります。会での本音トークとただ聞いてくれる仲間、また我が事として捉えられたい仲間がいないで互いに助けられたのではないのでしょうか。答えが欲しいので

知りませんでした。意味としては、簡単に答えの出ない状況に耐える能力、性急に答えを求めず、今できる努力を重ねる力のようなです。私自身が、困ったなあ、どうしたものか?と悩んでいる時に会った言葉でした。急がずに日々の様々な関わりの中からは見えてくるものもあるのではないかと、待ってみよう!これを能力として考えることにほっと



◆土岐氏の思いをうけて
あらためて、ご講演を思い出しつつ、「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉が浮かびました。作家で精神科医の帯木蓬生氏のご著書でこの言葉を初めて



講師を交えてグループ討議



したものでした。土岐氏もそれをされている気がします。どうすることもできず、焦る一方の自分ができることを探し、つながれる人につながり、少しずつ楽になられていったのでしよう。保護司活動においても焦りを感じ、追いつめられることもあり、今できることは何だろうか?と問い、つながりを探す自分があります。

茨木地区 事件係属状況	保護観察 件数	生活環境調整件数	
		刑務所等	少年院
令和5年4月	44	39	3
令和5年5月	45	35	4
令和5年6月	46	33	4
令和5年7月	45	35	4
令和5年8月	41	34	4
令和5年9月	41	34	5

(各月末日現在)

◆おわりお片ガで
昼食後は久しぶりの会員同士の雑談、グループ討議においては、対象者の親との関わりについて、のテーマに多くの意見が飛び交い、会員同士のつながりも深まるいい機会になったと聞いています。そして最後には、シニアのためのソフトヨガで一日の疲れをほぐしていただきました。翌日は思いの他軽快であったように思います。多くの協力を得て、無事に長い一日を終えることができました。

イオンモール茨木矯正展

～ 刑務所作業製品展示即売会 ～

〈日程〉令和6年1月27日(土)・28日(日)
〈場所〉イオンモール茨木1階ジョイプラザ

矯正展を開催します

社会を明るくする運動茨木市推進委員会事務局

令和6年1月27日(土)・28日(日)に、社会を明るくする運動茨木市推進委員会主催の「イオンモール茨木矯正展」を開催します。刑務所作業製品の展示や即売会を行うこのイベントは、「社会を明るくする運動」の一環として、犯罪のない明るい社会の実現と更生保護活動の啓発を目的としており、売上金の一部は刑務作業の原材料費や犯罪被害者支援団体の活動等の助成に充てられます。

令和2年に、社会を明るくする運動茨木市推進委員会の更生保護制度施行70周年記念事業として、第1回目を開催しました。以来、年に1回のイベントとして継続実施する予定でしたが、令和3年、及び令和4年はコロナ禍で中止になり、令和5年2月によろやく第2回目を開催することができました。第3回目となる令和6年1月の矯正展は、第2回目と同様に、刑務所作業製品に加え、浪速少年院による院生作業製品の展示・販売や、茨木BBS会によるお子さま向けの輪投げコーナーを企画しています。

社会を明るくする運動茨木市推進委員会では、保護司会をはじめ、様々な市民団体の協力を得ながら、いばらき×立命館DAYへの出店や、市民大会の実施、駅構内での啓発ポスターの掲示等を行っています。矯正展をきっかけに「社会を明るくする運動」や更生保護活動に興味を持っていただければ幸いです。皆さまぜひお越しください。



令和5年2月の会場の様子



社会を明るくする運動茨木市オリジナルポスター



社会を明るくする運動 シンボルマーク

社会を明るくする運動市民大会を終えて

社明部 部長 渡邊 明美

令和5年7月15日(土)第73回社会を明るくする運動市民大会を、皆様のご協力により無事に終えることができました。ありがとうございました。

浪速少年院 院長 倉繁英樹さんに講演をお願いいたしました。その講演を聴かれた方にご寄稿をいただきましたので、ここに紹介をさせていただきます。

社会を明るくする運動市民大会の講演を聴いて

中学生の頃、悪さばかりしている同級生が学校を休みがちになると「カンカン」か「ネンショー」のどっちかに行くんちゃうかとクラスの噂になっていました。その当時、鑑別所や少年院という施設が存在していることは知っていましたが、少年院は何処にあるのか、どのような施設で生活を送る場所なのか知りませんでした。

少年院は、傷害や暴行、窃盗や薬物使用など犯した少年が入る施設で、生活環境や家庭環境に何らかの問題を抱えている少年が多いと思っていましたが、職員の分析によると知能障害などでIQが低い在院者の割合が多くなっている傾向であるとの説明を聞き、発達障害を放置することの危うさを認識できました。また、在院者の社会復帰のために様々な職業訓練指導を行っている施設であり、身に付ける技能は100年の時が経つ中で時代に沿って変遷し、それぞれの時代にあった在院者の社会復帰に対応していることを知る良い機会でした。(Y.Tさん)



茨木地区更生保護女性会

茨木地区更生保護女性会 結成50周年



更生保護女性会のオコジョさん

特集

浪速少年院などとの交流と記念事業

2023(令和5)年で創立100周年を迎えた浪速少年院の行事に毎年参加させていただくことは更女会結成当初から諸先輩方が繋いでこられた大切な活動となっている。又、「子ども“わいわい”ネットワーク茨木」の活動から積み上げてきた市内児童養護施設(レバノンホーム、救世軍希望館、慶徳会子どもの家)との交流も欠かせない活動の一つである。そこで、50周年記念事業の一環として各施設に「今、子どもたちに役立つもの」を挙げていただき、その中からDVD、絵本、ボードゲーム、自転車等を記念品として、今年8月、更女会員が持参、贈らせていただいた。



結成50周年記念式典

茨木地区更生保護女性会が結成50周年を迎えたことを記念して、令和5年10月21日(土)13時30分〜クリエイティブセンター多目的ホールにて式典が開催された。式典には福岡市長をはじめ、大阪更生保護女性連盟会長西尾薫氏他、関係諸団体から計26名にご臨席いただいた。講演会では、講師に岸田ひろ実氏をお迎えし、「人生、山あり谷あり家族あり」と題してオンライン講演をしていただき、式典・講演会には75名余の参加をいただいた。



2013(平成25)年

茨木市更生保護サポートセンター開設

2020~2022年

Covid19(新型コロナウイルス感染症)による活動制限

2000(平成12)年 子ども“わいわい”ネットワーク茨木設立

子ども“わいわい”ネットワーク茨木は2000(平成12)年、子ども虐待事件を憂慮された当時の吹田子ども家庭センター所長の呼びかけにより、市内3児童養護施設と民生児童委員会、私立保育園連盟、更生保護女性会が共同で立ち上げた全国初となる民間子育て支援事業である。市域を北部、中部、南部に分け、子育て支援、虐待防止にきめ細やかに活動している。今年で23年となるこの活動は更生保護女性会の「地域との連携共同活動推進」理念と合致しており今後も継続する予定である。

2004(平成16)年

茨木地区
更生保護女性会に
名称変更

1996(平成8)年

茨木市更生保護推進協議会発足

1986(昭和61)年

更婦いばらき創刊

1993(平成5)年

結成20周年

1977(昭和52)年 更生保護のつどい第一回開催

1974(昭和49)年から毎年4月、茨木市下穂積の「七佛山 一乗海院 慈明寺」にて茨木市、大阪保護観察所、浪速少年院、茨木地区の更生保護団体、近隣地区の更女会会長などが満開の桜の下で集う「更生保護のつどい」を開催してきた。お茶席での語り、更女会員の楽器演奏、舞踊、時には皆の歌声も桜吹雪に乗り、楽しく有意義な集いとなっている。慈明寺のご住職ご一家には毎年お世話になり、開催にご尽力いただいていたが、この数年はコロナ禍のため中断を余儀なくされている。



“社会を明るくする運動”

結成時以来、継続して参加

1973(昭和48)年

茨木市更生保護婦人会の結成

大阪府、三島地区でも更生保護婦人会を結成した地区が増えてきたとの当時の保護司会等からの情報もあり、茨木地区でも結成に向けて動き出した。更生保護や更生保護婦人会について理解をしていただくため当時の明霊純保護司会長、女性保護司も尽力した。当時の保護司1人が数人は推薦しようとの動きもあり、声掛けで入会した方、保護司夫人、女性保護司等66名で結成された茨木市更生保護婦人会は三田久子さんを初代会長として結成式を迎えた。

1964(昭和39)年 全国更生保護婦人協議会結成

戦前は、少年保護婦人協会等の名称で少年保護の活動をそれぞれが団体、個人で活動していたが、1949(昭和24)年の犯罪者予防更生法施行後は、更生保護婦人会として市区町村等の地域を単位に地区会が組織され、次第に県単位・地方ブロック単位へと組織化が進められた。1964(昭和39)年には全国更生保護婦人協議会が結成され、その後1969(昭和44)年に「全国更生保護婦人連盟」と改称された。2022(令和4)年4月1日現在における更生保護女性会の地区会数は1,275団体、会員数は13万3,395人であった。(法務省保護局の資料)

2014(平成26)年

みんな集まれボランティア in いばらき参加 素麺販売

2014(平成26)年に結成2年目から受けてきた茨木市の助成金がなくなり、それを機に自立の道を模索することも活動の一部となった。まず「みんな集まれボランティアinいばらき」でのバザー出店を決定した。福祉やボランティアについて楽しみながら体験できる場に参加して会員それぞれが貴重な経験を積むことができた。更女会員、保護司会員からの提供品の売り上げは活動資金の一部となった。又、大阪更女連盟を通じて「島原の素麺」を更女会員、保護司会員に販売し、売り上げに応じた割合の活動資金を受け取ることができた。素麺販売は評判も良く、現在も続けている。



研鑽を積む

社会の変化の中で情報収集に努め、活動に繋げられるように自主企画研修も随時行っている。又、コロナ禍を経て再開された保護司会と共催の管外研修、大阪更女連盟主催のブロック研修、新人研修などにも積極的な参加をしている。次年度にはブロック研修が茨木地区開催と予定されており、50周年事業に引き続き、会員が協力し成果を上げたい。



2017(平成29)年 なでしこほっとサロン

2017(平成29)年、年間活動も予算も安定していたが、地域に向けての広報活動や会員増強についての課題は抱えていた。そんな時、「茨木市更生保護サポートセンター」の閉室時を利用し、地域の方々に向けての集まりを計画してはどうかとの案が出て「何するの?」「誰が担当するの?」と様々な意見が出る中、「とにかくやってみよう」となでしこほっとサロンがスタートとした。当初は会員の中でもサロンに対するイメージが共有できなかったが月に1度はとにかく開催、で継続し毎回数人から20人弱の人数であるが楽しく有意義な時間を過ごしている。開催案内は毎月初めに茨木市の公式Xに事務局を通じて投稿している。今後は市民活動センターの登録団体として”おにクル”での活動も視野に入れている。



フードパントリー茨木

誰もが予期できなかったパンデミックで社会の在り様に変化していた中、活動制限中でもできることはないかと意見を出し合った。そして、備蓄している食品を消費したら新しいものを買って(ローリングストック)サイクルの中で、各家庭での余剰品を生活困難な方々に提供できるのではと意見がまとまった。そこで「フードパントリー茨木」の活動に協力することにし、更女会で物品をまとめて提供した。「フードパントリー茨木」は子ども食堂や生活困難な方々に戸別配達も含め食料、日用品を配布されている団体であるが、2023(令和5)年10月から一旦活動を休止されている。



管外一日研修

阪神タイガースの優勝、日本一の熱気が、覚めやらぬ中、去る11月10日(金)に保護司会23名、更生保護女性会9名、総勢32名の方々の参加のもと令和5年度管外一日研修を行いました。往きは日本海に面した舞鶴です。行きの車中では、研修として前研修部長の畠山眞悟保護司よ

市長との意見交換会

本年度も、例年同様に11月21日午後、市役所会議室にて、福岡洋一市長他関係市幹部と、保護司会役員の列席にて開催されました。



り、刑務所や拘留所などで、受刑者の監視・監督などを行う刑務官についての講話を聞きまし。大変勉強になりました。小西厚生部長の軽妙で面白い司会のもと楽しくすごすことができました。舞鶴では、「舞鶴引揚記念館」を訪ねました。引き揚げと言え、歌で有名な「岸壁の母」を思い出しますが、引き揚げそのものは、13年間に延べ約66万人

の引揚者と1万6千人余のご遺骨を受け入れたということです。舞鶴では主に旧ソ連(現ロシア連邦)、中国など大陸からの引揚者を迎え入れましたが、大陸に残された日本人60万人が、旧ソ連へ送られ、その内の約47万人の人々がシベリア各地の北極圏の収容所で、長い年月辛い抑留生活を強いられました。館内の生々しい展示資料やボランティアガイドの方の丁寧な説明から、想像を絶する厳しい日常生活を伺い知ることができました。と同時に現在世界各地で起こっている戦争の悲惨さを思い改めて平和の有り難さを感じた次第です。



した。明治時代に海軍で作られた「海軍割烹術参考書」の料理の再現もされています。こちらでフレンチのコース料理をいただきました。その後、海軍ゆかりの港めぐり遊覧船に乗り、舞鶴湾を周遊。湾では現在停泊中のイージス艦や機雷除去のための掃海艇を見ることができました。帰りは恒例のビンゴゲームや平松保護司のお得意の豆知識に関するクイズを楽しみながら和やかな雰囲気のもと、全員無事に帰りがけことができました。この研修を通じ会員相互の親睦と共に、より一層の絆を深めることが出来たと思います。(厚生部 片岡和洋)

大阪更生保護大会

令和5年10月31日、大阪国際交流センターにおいて、令和5年度大阪更生保護大会が開催され、茨木地区保護司会からも表彰をうける保護司等が参加しました。記念講演では、「子どもたちの居場所づくりと再非行防止」の演題で、特定非営利活動法人「食べて語ろう会」理事長の中本忠子氏らがパネルディスカッションをされました。元保護司であり、対象者のみならず、その仲間の少年たちに自宅を開放し寝食を共にされたお話に圧倒され、居場所があることの大切さを改めて考えさせられました。(広報部)



保護司会 動 静

受章お祝い申し上げます

藍綬褒章



岸田 尚美

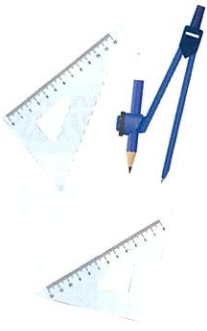


◎詳しい内容については次号でお知らせします。



令和5年度大阪更生保護大会開催

令和5年10月31日(火) 大阪国際交流センター
茨木地区からは次の方々表彰されました。(敬称略)



●全国保護司連盟理事長表彰

木元 美子

●近畿地方更生保護委員会委員長表彰

小西 利一 小西 正明
隈部 恵子 道満 正義
樋口 禎久 渡邊 明美

●委員長感謝状

藤本 和希 (BBS会員)
出井 裕真 (BBS会員)

●近畿地方保護司連盟会長表彰

射場 一之 小路 隆
辻 輝也

●大阪保護観察所長表彰

敷知 龍一 佐々木大照

●大阪保護観察所 永年勤続保護司表彰

岡村 節恵 田畑 敬
中村 亀雄

●大阪保護観察所長感謝状

仲 咲子 (更女会)
水野 暁寧 (BBS会員)
株式会社ELENA (協力雇用主)

●古賀 恭代 (協力雇用主)

●大阪保護司会連合会会長表彰

古賀 ひでみ 兼光 徳郎
竹村ルミ子 藤 慶哉

●感謝状

吉田 嘉弘 (家族功労)

退任保護司

ご苦勞様でした

下川 尚伸氏

研修部部长、監事、会計歴任
(平成十七年九月二十五日)
(令和五年九月二十四日)

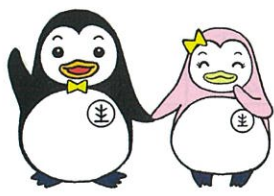
新任保護司です。

よろしく



玉川 美里

令和五年九月二十五日付
(三島中学校区)



編集後記

- 謹賀新年！忙しい毎日で自分を見つめる事がなかなか出来ませんが、今年も日々の生活に感謝していきたいと思ひます。(K)
- 保護司の活動も、広報誌のレイアウトも初めてのことばかり。還暦を過ぎても新しい体験ができることに感謝です。(K)
- コロナ前と全く同じとはいかないまでも、以前の生活が戻ってきました。保護司会も様々な行事が復活し、紙面を埋めることに苦勞した広報紙からの脱却です。(M)